

気温や湿度の低い日が増えました。これからやってくる本格的な冬に向けて、手洗い・うがいをしっかり行い、食事・運動・睡眠を十分にとり、健康な体作りを心がけましょう。

市内でも流行しているインフルエンザは、園では現在0名です。11月に入り、全員健康で登園している日が続き、嬉しい限りです。しかしながら冬期は必ずといってよい程インフルエンザ、ウイルス性の胃腸炎が遅かれ早かれ流行します。ほけん係（看護師）、保育者が正しい知識、対応力を身に付けて子ども達が健康に過ごせる様に、努力していきますので、家庭でもご協力をお願いします。

インフルエンザ

今年は、去年と比べ約1ヶ月早い、10月上旬から流行シーズンに入りました。複数の型が流行しているため、感染者数の増加が長期間にわたる可能性や、シーズン中に複数回感染する可能性があるそうです。富山県でも、注意報レベルの感染者数が報告されています。

例年、12月頃から流行し、罹患者が増える傾向にあります。インフルエンザの典型例は急激な発熱（高熱が多い）、全身倦怠感、筋肉痛などの全身症状から始まり、数日（1～3日）してからさせき・鼻水などの呼吸器症状が現れ、その後1週間ほどで回復していく病気です。

乳幼児は抵抗力が弱く、インフルエンザに感染した場合、中耳炎やけいれん、まれに急性脳炎などを合併することがあります。もし感染してしまった場合でも重症化を抑えることができるので、予防接種を早めに受けることをおすすめします。

感染された時は、「インフルエンザ治ゆ報告書」の用紙を園に取りに来てもらうか、園のホームページのダウンロードコーナーから印刷して記入して下さい。

そして体調がよくなり、登園を再開する際に保護者の方が記入し提出して下さい。

治癒報告書のQRコード



インフルエンザ

新型コロナウイルス

※コロナウィルスの場合も、同様に保護者の方が記入する「新型コロナウイルス感染症の治癒報告書」が必要になります。

感染症予防

冬季は乾燥し、ウィルスの持続力が高まります。園では、手洗いうがい、消毒・部屋の換気、湿度の管理を行い、感染予防に努めています。園内で感染症が発生した場合は、メール等でお知らせ致します。

集団生活では、どうしても様々な病原体にさらされる機会があります。お子様がいつもと様子が違う時や、37.5℃以上の熱がある場合、連絡させて頂きます。そして、職員室や病児室で安静に休んで、お迎えを待ちます。朝、お子様の様子を保護者がしっかり見てあげて下さい。調子が悪い場合は、お家で安静に過ごしましょう。

- ・全保育室に空気清浄機と加湿器を設置しています。また、各所にオゾン除菌器も設置しています。
- ・冬の室内は温度17～22℃、湿度40～60%に保つようにしています。
- ・床暖房の表面温度は26～27℃です。
- ・水分を十分にとれるよう、冬期間中もお茶を持ってきて下さい。不足の場合は、園でお茶の補充をしています。

※年1回学校薬剤師さんによる環境衛生検査を行っています。（令和7年10月10日実施）各部屋の照度や、温度・湿度、CO₂濃度などを、測定器を使って検査してもらい、適正に保つようにしています。

※お子さんが病気になられた時、どうしても預けなければならない時は、病児・病後児保育施設のキッズベアーがあります。

検診の結果

内科 10月24日（金）

胸や背中を聴診器で調べてもらいました。異常が見つかったお子さんはいませんでした。



桝崎クリニック 桝崎繁喜先生

歯科 11月14日（金）

虫歯があったお子さんは、治療カードをお渡ししました。

早めの治療をおすすめします。

結果（虫歯のあったお子さんの割合）

つばめ…18% はと…6% あひる…11%
ぺんぎん…0% ひよこ…0%



えぐちおくがわ歯科医院 奥川博司先

気を付けたい感染症

①、②、③は、冬期に流行しやすいので気を付けて下さい。

①感染性胃腸炎 ロタ、アデノウィルス

細菌やウィルスなどの病原体による感染症で、秋から冬にかけて流行します。症状は、おう吐、下痢、発熱、腹痛で、2～7日で収まるが、脱水症状に気を付けなければなりません。

②ノロウィルス-食中毒菌

手指や食品などを介して口に入り、腸内で増殖し、おう吐、下痢などを起こします。冬場に多発し感染力が強く、子どもは重症化しやすいです。汚染された食品や、感染者の便や嘔吐物から感染します。園での食品の提供については十分注意をしています。ご家庭でも気を付けて下さい。

③RS ウィルス感染症

11月～1月ごろに流行することが多く、感染力が非常に強いウィルスです。2歳までにほぼ全員1回は感染し、何回も感染するのが特徴です。鼻水や咳、ゼーゼー、ヒューヒューといった喘鳴が特徴的な呼吸器の感染症です。1歳未満の場合、重症化する場合があります。

咽頭性結膜熱（プール熱）

感染力が非常に強く、患者の咳のしぶきから飛沫感染したり、患者が触れたものに付着したウィルスから、感染します。症状は、発熱（高熱が続く）・頭痛・のどの痛み・結膜炎といったものです。

手足口病

小児期にかかりやすく、口の中や手のひら、足の裏・甲などに水疱性の発疹が現れて1～3日間発熱することがあります。水疱はかさぶたにならずに治る場合が多く、1週間程度でなくなります。

りんご病

頬が赤くなり、発熱や頭痛など、風邪のような症状になります。2週間近くの潜伏期間があり、その後に発疹が出ます。特効薬はなく、安静に休んで治療します。